

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
<p>自主防災の推進について</p>	<p>自主防災組織について、自分の住んでいる地域のことを申し上げますと、合併後の、平成19年でしたかに、自治会を中心にした防災組織としまして、自主防災組織が全町的に作られました。</p> <p>ところが、その防災組織自体が活動できるかがちょっと疑問でございまして、恥ずかしいこととございますけれども、私どもの地域の自主防災組織は、会計も何もございませんで、ただ規約だけがあるような感じでございます。</p> <p>ですから、ここに書いてあるように、自主防災そのものを、もう少し、強化をするような方向で持って行っていただけたらと思うんでございます。</p> <p>今、豊田委員が言われたように、自治会を中心とした自主防災組織ですが、私の住んでいる敬和地区でも、中川会長さんを中心によくやっていたと思うんですけども、その自主防災組織に加入している会員さんが、年齢的に見ると、どちらかというと助けてもらう人の方が、一生懸命にやっているように感じております。</p> <p>こういったところがございまして、もう少し若い人が、自主防災組織の中核になるとまでは言いませんけれども、中心になっていただくように、そういう組織を考えるべきではないかと思っております。</p> <p>大変難しい話ということは承知しておりますけれども、地区の現状はそういうことですので、心配をしております。</p> <p>年配の方々だけではなかなかできませんので、そういった実態も把握していただきながら、機能する組織にするということとをさらに取組みを進めるということ、これも盛り込ませていただきたいと考えております。</p> <p>御意見の中に、自主防災組織の活動予算について最低でも10万20万の補助を出すべきとございます。</p> <p>この項目それ自体は、個別の事業に関する要望ですので、本審議会で直接取り扱うものではないかもしれませんが、市としてのバックアップというものの種類とか内容がどのようなものなのか、それにつきまして、何かコメントをしていただけますか。</p> <p>市として、取組む基本的な方針はこういうポイントにあって、それをこういう形で進めていることが明確にできればと思いますが。</p> <p>いろいろお話ししていますが、10の地域について、国勢調査ベースで年度別に人口を把握されていますね。</p> <p>少子高齢化が進むとか、先ほどから言ってみえますが、例えば、高齢者の方々が多くなってきている。</p> <p>これは目に見えて分かるわけですね。</p> <p>そういうデータをベースにものを言ったりしないと。</p> <p>少子高齢化という言葉はみんな使われてますが、データの的に調べた人はいますか。そういうところに、ちょっと僕は疑問があります。</p> <p>僕はたまたま、少子高齢化という言葉を使っておりますので、平成2年から、5年おき、平成17年まで、久居地区には37地区ありますけど、37地区の人口を調べております。</p> <p>津市は10地域あります。全部調べました。確かに少子高齢化は進んでおります。この数字を見たら、誰でも分かると思います。</p> <p>例えば、災害対応だとか、防災の体制づくりだとか、何かやるときに、各地域にどれだけの自治会があるのか、こういうデータを調べてますか。</p> <p>例えば地域によって自治会の大きさも違いますし、負担金を同一でやるのか、二つの自治会、三つの自治会が重なってやっておるのか、事実を把握しないで、ただ抽象的なもの言い方だけだと、僕はあまりにもQ&Aにならんとするんですね。</p> <p>だから、事実を調べてもらって、例えば、今年、ちょうど平成22年で国勢調査を行ってますので、今年の分の人口等のデータが出ると思いますので、私もそれは確認させてもらおうかなと思っておりますけど、こういう一つ一つのデータをベースに話をしてもらえると、ものすごく分かりやすい。そんな気がします。</p> <p>地域かがやきプログラムですか、そちらの方で、地域別に属性がありますよね。</p> <p>各地域のいろんな特徴がありますので、そちらの方で、もう一度地域への落とし込みとして提案してもらい方が一番いいかなという気がします。</p> <p>それと、市の方も、数字はこの審議会の場ではいちいち挙げないにしても、全体像を把握しながらやっておられることだろうと思います。そうじゃないとできませんから。</p> <p>ですから、それは間違いないだろうと思いますし、どうしても地域ごとに特徴が違いますけれども、この地域ではこういう取組み、この地域ではこういう取組みと、総合計画という全体計画を評価するに当たって、一つ一つ項目を挙げて御検討いただくわけにもいかないと思います。</p> <p>前に議論のテーマとなった保育所とかの問題でも、榊原とかはもう子どもがいなくてというお話がありましたよね。</p> <p>ですから、そういうようなところは、各地域のいろんな要望を受けながら対応しているという前提で、御議論していただければいいかなというふうに思います。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>住みやすさ向上プログラムの全体を通してなんですけれども、特に防災関係のところ、地域の特徴とか予想される被害の違いといった面で、詳しくはちょっと分かりませんが、地域の特徴による大きな影響を受ける可能性はありますよね。</p> <p>ですから、そういった各地域における、少なくとも被害とかそういうものが違うということも想定しながら、自主防災組織を組織化していただいたので、今度はより強化する中身について、少し地域差も含めて綿密に進めていただくということですね。</p> <p>それから、若い方々にも入っていただけるよう取り組んでいただくとか、民間の建物についても耐震化を進めるよう、積極的に啓発や要請をしていくということをお願いするということがよろしいでしょうか。</p> <p>他にもあるかと思いますが、漏れないように、いろんな意見を吸収させていただきたいと思います。</p>	<p>自治防災組織が機能していないため、行政の支援を。</p> <p>自主防災組織で、高齢者が中心的な役割を果たしている。若い世代の参加を促進する取組みを。</p> <p>今年国勢調査の実施年度であり地域ごとの人口が把握できるため、そのようなデータに基づいた議論を行うべき。</p>	<p>自主防災組織の整備及び組織の強化に当たっては、地域特性を踏まえた綿密な取組を進めるとともに、高齢者が主体となっている実態も踏まえ、若年層の参加を促すなど、実効性にも留意した取組を図りたい。</p>
<p>その他（事業の評価・取組みについて）</p>	<p>意見・提言書をずっと読ませていただきましたが、これを見て、具体的にどういことをやれば、その問題が解決できるかっていうのが、一つも見当たらないんです。</p> <p>例えば、2-1住みやすさ向上プログラムのところで、まちづくりレポートで、事業効果を検討するための実績、特に数値での指標の記載がないとの意見があります。</p> <p>数字の記載を作ってくださいよ。</p> <p>どれが悪いのか、どれの数値が〇で、どういう数字が普通で、どれがいいの、というのがありません。</p> <p>具体的に数字を教えてください。その数字を見て、一つの目標というのを見据えて、達成しているところ、達成していないところが初めて分かるんです。</p> <p>そして、達成していないところは何をしたらいいの、課題検討項目が出てくると思うんですよ。</p> <p>だから、これは大きくまとめた形で書いてありますけれども、そういうふうの一つ一つ問題解決をしていくべきでしょう。</p> <p>僕は今初めて読ませていただきますけれども、衣食住なんですね、これ。全部仕切れちゃうわけですね。</p> <p>住みやすさ、食と、環境と、衣食住の3つに分けられるんですよ、これ。</p> <p>その中で、特に、なぜなのかを検討していかねばいけない項目が多々あると思います。</p> <p>だから、要するに、それを皆さんで取り組んで、一つ一つちっぽけな問題を見つけて、直すことによって、何か、いい、元気づくりの方に繋がるような気がします。</p> <p>何も、ただこれだけを見ていても、具体的に何をやるんだということについて、いい意見が出てこないような気がしますけれども。</p> <p>そんなふうに感じます。</p>	<p>まちづくりレポートが具体的な書き方をされていない。</p> <p>課題検討項目を具体的に明示して、具体的な議論をすべき。</p>	<p>実施した事業について、可能な限り数値化したデータを活用し、一つ一つ評価や課題の検討を行うべき。</p>

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>ごもっともなところもあるかと思いますが。 前回、例えば、ウォーキングマップを作ったから、健康推進にどれだけ役に立てるんだという御質問と言いますか、御意見がございました。 しかし、確かにウォーキングマップを作ったから、あるいは、ウォーキングのルートを作ったから、何名の健康づくりに寄与しましたという数字は出て来ませんよね。ですけれども、そういう環境づくりを行っているということですよ。 市としては、健康づくりをしていくための環境づくりをやっているわけです。 そして、それをどれだけの人々が利用していくか、どういうふうにご利用していくかということに対して、皆さんのいろんな意見をいただいて、そして皆さんが、楽しんで健康にウォーキングできるようにしていきたいと思いますというところですよ。 私は市の代弁するわけじゃないですけど、前期計画の計画期間5か年のうちの2年間の事業で、当面はこういうものを、環境整備の中でも、特にきっかけづくりという段階で、まだ形としてしっかり見えてこないというだけであって、少し経てば、しっかりと数字をお示しできるようになるんじゃないかなというふうに思っているんです。 ですから、確かに、特にひとづくりと言いますか、元気づくりのところでは、どれだけ効果があつたのかということ、果たして数字に出せるのか、それから、全体を見ても分かりますように、ウォーキングマップは、健康推進だけが目的ではなく、いろんな人を呼びましよう、呼び込みましよう、そして、津が持っている自然の恵みや、歴史の豊かさ、そういったものをうまく掘り起こして交流事業を展開して、そして津市を活性化させていきたいと思いますということも狙いとしてあるわけで、一つの取組みの中に、二つも三つも目的が仕込んであるわけですね。ですから、そういうところも考えていくと、これこれという結果が出ました、というような形で出すのがいいのかどうかということもあるんですね。 おっしゃるとおりに、分からないでもないんですけども、出し切ったからどうかということもあるもので、全体で、お考えいただけたらと思うんですが。</p>	/	
<p>その他（高等教育機関との連携）</p>	<p>地域審議会でも議論しておりまして、そこで、委員の方から、意見が出ております。 今、会長がおっしゃられたように、ちょっと具体性がないんですが。 まちづくりレポートを読ませていただいたところでは、三重短大との連携についての取組みというのは非常に見えております。 津市には、三重短大の他に三重大とか看護大とかがあるんですが、産学連携とか、高大連携とか、大学間連携とかいろいろな連携が考えられるんですけども、どうも、三重短大以外との連携がちょっと見えてこないで、その具体的な説明がほしいということです。</p> <p>これは質問ではなくて、先ほど会長さんがおっしゃっていただいたように、ウォーキングマップを作成・配付するという段階で終わってはいけないうことで、我々も、まだまだこれから取組みを進めてまいります。 ただ、その中で、我々現場の意識として、先ほど大下委員がおっしゃられましたように、もうちょっと現場の方に出ていくことが必要だと考えております。 実は、自分たちの関わっている健康づくりのところでは、三重短大との連携ばかりではなくて、三重大学の看護学科の学生さんや、看護大学の学生さんたちに御協力いただいて、近々、骨密度のアンケートを採るといことも行う予定です。 そういうふうにならば現場に、ただ机上で話し合いをするだけではなくて、そうやって出て行くというの、もちろん保健センターの方とか行政の方にもバックアップしていただいて、取り組んでます。</p> <p>そういったような取組みもあるということですね。 大きな組織と大きな組織だと、看板背負って意見交換みたいなことになる、なかなか難しいんですよ。 ですから、組織全体ではなく、ある部署ということなら部署という大きさの方が、例えば大学にも社会連携の方にそういう窓口がありますので、いわゆる気楽にお話を聞いて、こんな分野だったらどなたがいますかというふうな形でお問い合わせをいただいて、できるところから進めるという形でさせていただいたら、大学としてもやりやすいんじゃないかなと思いますので、引き続き、三重大学としても、津市の方と一緒にやっていきたいと思っております。 看護大学もありますし、高田短大もありますので、三重短と合わせて進めたいと思いますので、その点も、要望と言いますか、今後取り組んでいただきたいという形で、お受けたいというふうに思います。</p>	<p>（香良洲地域審議会における意見の紹介） 三重短大だけではなく、他大学との連携事業についても、実績として明示すべき。</p> <p>机上での議論だけではなく、実際に現場で活動する機会も重要である。</p>	<p>三重大学を始めとする市内の高等教育機関との連携をより一層進められたい。</p>
<p>津ぎょうざの魅力向上を</p>	<p>この津ぎょうざという大きな取組みも津市として進めてきております。 この津ぎょうざについてですね、前回は、井村屋の社長さんの浅田さんが、津ぎょうざの取組みに関わって、おいしいの作るの協力しますよというようなことも言っていただいております。 ある委員の方は、各店舗でおいしい店とそうでない店のばらつきがあるとおっしゃって見えましたから、この辺も何とかしないといけないうところに行ったら、シラスの入った津ぎょうざがあつて、とってもおいしかったという話もありますので、まだまだ工夫ができるのかというふうに思っております。 何か、これを進めるに当たって、現在、ボランティアでやっていただいている方々へのバックアップ体制とか、あるいは、実施していただいている方々のところをどうするか等、御意見ございますか。</p> <p>その津ぎょうざというのはどこで売ってるんですか。 食べたことあるけど、私自身はあまりうまいとは思わなかった。</p> <p>まちの中に、黄色い、津ぎょうざって書いた旗が立っている店がたくさんありまして、そこで販売されております。 それから、元々は子どもたちの給食に出て人気があつたことなんです、何で人気があつたのかなというところを考えますと、やっぱり揚げぎょうざで、おやつ感覚で食べられるというところも大きいかなと思います。 今、業者さんの中では、揚げぎょうざが果たして日本人に支持されるかどうかというところまで考えて、研究をしていらっしゃるということをお聞きました。 もしかしら、これは海外に売った方が、受けるかもしれないねという話をしてる業者さんもあるということです。 それから、スーパーに、チルドで、パックに入ったのも販売されていますので、一度、お探しになってみてください。 また、そういう商品についても、これからどんどん開発していくということです。</p> <p>井村屋さんも協力していただけるということですので、そういう方向で、取り組んでいただくということで、津ぎょうざの関連ではよろしかったでしょうか。</p>	<p>津ぎょうざの認知度・味に不満がある。 今後、一層の取組みを。</p> <p>津ぎょうざについて、海外展開への構想を含め、事業者は積極的に活動している。</p>	<p>津ぎょうざについて、津市の全国発信につながるよう、より一層の活動の促進を図られたい。</p>

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
<p>幼保一体化に関する国の方向性と市の方向性</p>	<p>それでは、次の幼保一体のことでございます。 これも、若者定住プログラムという括りにはなっておりますが、重点プログラムには入っていない項目ではございます。 前回までに御意見として出ておりましたので、改めて頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。 国の方の所管も、厚生労働省と文部科学省となっておりますが、実態に合わせた幼保一貫ということが打ち出されてきておりますので、おそらく、早晚、いろんな法整備がなされた上で、導入されていくものだろうと思います。 そういうことで、これを拒む理由はどこにもなからうと思いますので、国の方で、法整備とかいろんな難しいところをクリアしてもらいながら、市としても、そういったものがすぐ導入できるように、準備していただくということでよろしいでしょうか。</p>		<p>幼保一体化について、国の動向を注視しつつ、導入に向けての準備を進めるとともに、子育てをしやすい環境づくりに向けて、より一層の取組を推進されたい。</p>
<p>子育てしやすい環境づくり</p>	<p>それから、住みやすさ、あるいは若者定住というところで、やっぱり地域の人が、子育てしやすい環境づくりということで、子どもたちを見かけたらすぐ声を掛け合う、昔ながらのものが、だいぶ弱くなってきているというような御意見ですね。 人の転出入も多いですし、それから核家族も多いですから、なかなかこういったことがしにくいような社会情勢ですけれども、こういったことを危惧されて、御意見として出されております。 ICTですか、こういったものが、こういうことだけではやっぱりいけないだろうと思いますが、何かこれについて、具体的にこうしたらよいんじゃないかなとか、あるいはこういうような検討をするような組織を作ったらどうかとか、何か御意見ございますでしょうか。 団地に行きますと、子どもが避難できる家ということで、旗を立てていただいたりしておりますけど。</p>		
	<p>ちょうど今、堀内さんの方から出たお話ですが、つい先日の市広報にも、育生地区のそのネットワークというのが、ちょうどまたま載ったんです。 こういった、いい先進事例があるので、他の地域にも、是非そういったいい取組を広げていって、いろんな地域の取組みに還元させていただけるといいと思います。 それから、香良洲では、防災無線を使った取組を行っております。 実はこの防災無線がなくなってしまうのでどうしようかという問題があるんですが、これは他の地域にも事例はございますけれども、3時になりますとその防災無線で、お年寄りの方々とか、買い物に行こうかと思っている方とか、犬の散歩に行こうかと思っている方は、是非、子どもさんの下校の時間に合わせて、まちに出てくださいというふうに放送するという行っています。 それから、我々ボランティアだとか、一般の市民の方だとか、いろんな人たちが関わってようやくできたことなんですが、もう一つ、おじいさんやおばあさんと同居している子どもたちがおりまして、おじいさんやおばあさんは、下校時にお迎えに行くものですから、ついでに他の、登下校が同じ方向の子どもたちと、是非、一緒に帰ってくださいという取組をしているところなんです。 ただ、今言いましたように、防災無線がなくなってしまうので、一斉にこの情報を流していくにはどうしようかという課題があるんです。</p>	<p>育成地区における児童虐待対策のような、いい先進事例があるので、そういった取組を広げていってほしい。 防災無線を利用した取組も行っており、配慮いただきたい。</p>	
	<p>今のやり方ができなくなるんですね。 やっぱりその辺をもう工夫していただいて、何かいい方法を見つけていただきたいと思います。 ただ、御意見にもありましたように、いいモデルケースになっておられるようですので、それを市全体に広げていけるように取り組んでいくということをお願いするということでお受けしたいと思います。</p>		
<p>共通（自主防災の推進について、子育てしやすい環境づくり等）</p>	<p>自主防災でもそうなんですが、地域の特性というのを、是非、考慮に入れていただきたいと思います。 例えば、海岸線、沿岸はみんな一律平等でないといけないとか、あまりそういうふうなのではなくて、山間部と違うということもありますので、是非、その、地域の特性というところを、お願いしたいと思います。</p>	<p>地域特性を考慮に入れて議論いただきたい。</p>	<p>事業の実施に当たり、地域特性を踏まえたきめ細かい対応を進められたい。</p>
	<p>そういう使い方につきましても、どういうところで盛り込ませていただくかは別として、きめ細かい対応を進めてほしいという形で盛り込ませていただきたいと思います。</p>		
<p>「江」への積極的な取組を</p>	<p>お江のお話ですが、地域審議会からはまちづくり戦略プログラムということで意見が出ておりますが、ちょうど元気づくりプログラムにも該当していると挙げていただいておりますので、併せて申し上げます。 一番始めに、会長の方から、津市っていうのは商業都市でもない、産業都市でもない、県都として、というお話がありましたが、やはり、津市をどう発信していくかということで考えると、このお江の取組がまだまだ弱いんじゃないかという意見も出ておりますので、よろしく願いいたします。</p>	<p>「江」に関する取組が弱いのではないかと。</p>	<p>大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映を契機とした事業の実施に当たっては、様々な事業を組み合わせ、戦略的に取り組まれたい。</p>
	<p>後のところにも出てきますけれども、ウォーキングだとか、花火だとか、いろんな人が集まりやすいところと、もちろん秋の津まつりもありますし、そういうところを踏まえて、戦略的に宣伝といいますか、アピールして取り組んでいただくという御意見がございます。 おそらく市としてもそういうことを考えておられると思いますが、そういうことを盛り込ませていただきたいと思います。</p>		
	<p>せっかく、津市に江というキャラクターがあるのですから、「江（Go）！ 津（To）」や「江（Go）！ 津（To） 江（Go）！！」というふうにかけてみてはどうかと思います。 その次の御意見に、宿泊を伴う2デイウォーキングというのがありますね、これも、津（2）デイというふうに、津というのをかけていくというか、TWO（2）の下に津って書くとかで、江だけではなく、そこに津を絡めたコピーを作るといったようなアイデアを入れてもらったらどうなんですか。</p>	<p>イベント等のキャッチコピーに、「津」や「江」といった名前を活用してはどうか。</p>	
	<p>来年の放映に間に合うかどうか分かりませんが、お江が暮らしたところだというのは、しばらく使える話題だと思いますので、その歴史的なものも紐解いて、いろいろ取組をやっておられますので、さらに詳しいことが分かるような取組みや、市内のいろんな目玉になるような場所と、こういうイベントと、うまく組み合わせるといったことでしょうかね。 是非、そういう取組をしていって、そういうボランティアの人も育てていきたいし、また、そういうことで活性化していただきたいということですね。 そういう御意見も盛り込ませていただきたいと思います。</p>		

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
地域間交流の促進	<p>それから、津市の魅力として、海と山とか、住みやすいとか、自然が豊富であるとか、いろいろあると思います。文化的なもの、歴史的なもの、それから、やはり教育が充実しているとか、いろいろあると思いますが、これについて、中山間地域の活力維持のために、全市的な協力体制が取られるべきだというのが提案されております。</p> <p>全体会議で、一度、小泉委員が、海と山と交流して、ああ津ってほんとにいいなって思うような交流プログラムをしっかりと考えてくださいと発言されておられました。これは地域審議会の方々をお願いした方がいいのかもしれませんが、ここここを交流したらいい取組みになるんじゃないのか、そういうのをセットで、市民の皆さん、あるいは県民の皆さん、あるいは全国の皆さんに発信したらどうかということになると思います。</p> <p>ここの中山間地域の活力維持のために全市的な協力体制をという御意見が出ておりますが、この趣旨はということでしたかね。</p> <p>全市的な協力体制が取られるべきだということで、山間地域にいいものがいっぱいあるので、それで人を集めるためにはルートバスというか、ミニバスというか、コミュニティバスというか、そういうものを整備するという話でしょうか。</p>		地域間の交流事業を、全市的な協力体制の下、促進されたい。
海と山の魅力向上	<p>津の特徴として、海と山というのがありますよね。この、海についてでございます。</p> <p>オーストラリアやニュージーランドへ行きますと、国民のほとんどの人が小さいボートを持っています。乗用車やトレーラーなんかで、自宅に保管しているボートを海岸へ引っ張って行って、無料で下ろせるスロープがありますので、子どもたちや御両親たちでボートを引っ張って下ろして、海で遊んだり、ヨットに乗ったりしてます。</p> <p>日本では、そのスロープを利用するのに制限がありまして、漁港等にせつかく空いているスロープがあっても、ほとんどが使用禁止ということになっているんです。</p> <p>それで、ファミコンやパソコンのゲームに熱中している子どもたちを海へ引っ張り出すのに、こういったところの対策をしてはどうかと思います。</p> <p>津インターから南の高速道路も無料となっていますし、この津市にある漁港やマリーナのスロープを、土曜日は漁師さんが休みですので、その時に漁港を無料で利用できるようにして、子どもたちをもっと自然の中へ引っ張り出せるような施策を考えていただけたらと思うんです。</p> <p>日本は海に囲まれていても、小さなボート一つ、サラリーマンの人たちが持てないという状況です。</p> <p>これはやっぱり、マリーナといった係留施設の利用料金が非常に高いので、それで少ないのではないかと感じております。</p> <p>津市で、もう少し、自宅の庭におけるようなものをすぐに海へ下ろせるようにしていただけると、すごく元気なまちになると思います。</p> <p>日本国内では、意外とそういったところが少ないですので、既にある施設を使って、費用もかけずに、賑わうまちにするというような方策も考えていただきたいなと思います。</p>	<p>津の特徴である海を多くの人が利用できるように、既設の港湾設備を一般に開放してはどうか。</p> <p>子どもの育成のためには、自然とふれあう機会を作ることが重要であり、港湾設備の一般開放は、非常に有用。</p>	子どもたちが海や山で楽しむ機会を創出し、自然と共生した生活を体験させる取組みを行うてはどうか。 <p>ただし、事業内容には検討が必要。</p>
その他（事業の評価・取組みについて）	<p>先ほど、部長さんが津まつりの規模が大きくなってきたとおっしゃいましたね。ところが、その規模の大きさというのは、素人の我々が聞いてもよく分からない。</p> <p>3年前と5年前と、今年の津まつりはこう変わりましたという違いを出して、こんなに変わりましたよという事実を説明してくれないと、ものすごく理解しにくいですよ。</p> <p>ただ大きくなりましたと言っているだけで、3年前、5年前と比べたら、どんなふうに大きくなったのか、人数が増えたのか、商店がどれだけあったのがこうなりましたとかいうのを、参考にお話をいただけるといいと思います。</p>	<p>（主催者側の意識として）</p> <p>自然を利用する機会の創出に当たっては、今の情勢では、何かあったときの責任問題や、参加者数の減少が課題。</p>	数値データを基に、事業の評価を行い、戦略的な検討を行うべき。
	<p>例えば、御存知だと思いますけれども、久居でも花火大会、夏まつりをやるんですよ。</p>		

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
	<p>昔に比べて、2年か3年前から、花火を打ち上げる高さを落としました。何故かと言うと、花火を上げた煙が民家に全部入るらしいんですが、そのために市民の方から苦情が出まして、それで高さを低くした、そういう経過がございます。久居の花火大会というのはすごい人気がありますので、そういうことで高さを制限したりしております。ですから、大きい、小さいということより、どれだけのスタッフが絡んで、だいたい店は何件くらいでということの方が重要で、それが2年、3年前と比べてどれだけ変わってますというデータがあったら、本当に戦略的なものの言い方ができると思うんです。さらに3年、5年先を見込んで、どういう手を打っていかうかとか、結果だけの話じゃなくって、そういうデータをベースに話をした方が、皆さんが納得していただけるかなという気がします。</p> <p>ただ、今部長がおっしゃってたこともありますので、実行委員会の方々は、今年よりは来年もう少し大がかりにできそうだという思いでやっておられる。例えば市が号令して、例えば300店集めるぞと言ったって、市が集められるわけじゃありませんので、まちの商工会とかいろんな方々の、努力の結果として、毎年毎年増やしていきましようというものですよね。</p> <p>おっしゃるとおりなんですけど、ただ、大下委員とやり合う気はないんですけど、どういう手を打っているかというのが大事だと思うんですよ。これは、人づくりですから、いろんな観光ボランティアにしても何にしても、そういう人たちを育成するという取組みもあると思います。そういうための何か講習会をやったという場合に、講習会をやって何人を養成できたんだという言い方になってしまいがちですけど、これは、手を打っていくということ、継続的にやっていくということで、そういう人が形成されていくわけですから、実数で出てこないところもあるだろうと思うんですよ。では、最終的に何人の人間が育成できたんだ、何人のボランティアが養成できたんだと言っても、ボランティア活動に参加したい気持ちはあっても、まだ仕事の方も忙しいから仕事が緩やかになってからやろうかなと考える人とかもあるかと思うんで、どういう手を打っているかというのが大事だと、僕は思います。</p> <p>ただね、今、国でも、事業仕分けをやっているわけですね。それと全くイコールではないですけど、事業仕分けは、一つずつ、無駄なところといいことを分けてやっているわけですよ。無駄なところがあったら削除していくのが事業仕分けの仕事なんですよね。だから、そういう国の動きを視野に入れながら、我々のできるところは、よくなったと言葉だけで言うのではなくて、人数的にこうです、ああです、というふうに、数字で実証できる方が、僕は一番いいなということで、意見を言わせてもらっています。</p> <p>大下委員の考えは、だいたい承知しているつもりでおりますけれども、数字がないからこの事業は取りやめという議論になっていくと、全体の総合計画が破綻してしまいますから、それに変わるものを入れなきゃいけないわけですね。この審議会で適切な事業を入れられるかと考えると、何年間もかけて、しっかりとした専門家がいろんな高所大所から、その駒を組んでいっているわけですから、私たちにはできませんよね。ですから、これは数字が出てこないからだめだって抜いていくというもの、やっぱり変な話ですよ。だから、難しい面もあるかもしれないけど実数を大事にしてくださいとか、そういう提案の仕方はできると思うんですよ。ですから、そういう形で、大下委員の意見は吸収させていただこうかと思っていますが、それでよろしいですか。</p>		
海と山の魅力向上を	<p>西口委員と小林委員への反発の意見となってしまいますが。ちょっと数字で表せということで参考にしていただければと思います。私は、白山の健全育成の会長もやっております。4年前から、冬、子どもを集めまして、長野県へスキーに行っております。夜出発、朝に向こうへ到着するという2泊3日ですが、4年前の参加人数は6人でした。大型バスを予定しておったんですが、参加人数が少なかつたため15人のマイクロバスに変更しての実施となりました。このイベントも、毎年行っておりまして、今年の2月は、22人の参加がありました。このイベントに対しては、健全育成からは、保険料だけ支払うだけで、あとの実費は、全部御家庭から払ってもらっております。来年の2月、宿泊先も全部予約出来ておるんですが、参加人数25人というメンバーで、既に参加希望をいただいております。西口委員の言われるような、子どもを自然の中に引っ張り出すという取組みを行っているわけですが、ここではスキーができませんが、長野まで行けばスキーができるということで、年1回の行事ですが、子どもたちも喜んで付いてきます。講師として3人の人、毎年同じ人に同行してもらってまして、なかなかうまいこと子どもたちの相手をしてくれる方で、子供らも喜んで参加します。子ども一人あたり2万4千円くらいで、国民宿舎というか、そういうところに来年の分ももう予約してあります。そういうことをやっていますので、御紹介します。</p> <p>責任とかそういう問題が出てくるということで、2泊3日でスキーに連れて行くというのは、引率の方も、そこで非常に責任が生じるという御苦労も多々あると思います。その責任の問題ですけど、私事で恐縮なんですけど、時間が取れたときに、息子とオーストラリアへ、ツアーではない自由勝手な旅行に行ったときのことを御紹介させていただきます。世界一周レースに使われた大型ヨットに乗って無人島へ行くという現地ツアーに参加いたしました。そのツアーの参加者は、ヨーロッパのお年寄りが非常に多かつたのですが、大型ヨットの甲板に並んで、ライフジャケットもまったく着けずに、裸足で乗ってツアーに行くんですね。その時に、すべて自己責任という感覚がすごくありました。ですから、自己責任ということを考えることとした方がよいのではないかと思います。引率する側の責任とか、そういうことを考え過ぎていては、せっかくの子どもたちの新しい体験というか、新体験の芽を摘んでしまうような気がするんですよ。私も初めて、その大型のレース用のヨットに乗ったときに、子どもみたいに、すごく速いとかすごく気持ちいいとかを本当に感じましたので、そういうことを子どもたちに体験させてあげたいなという気があって、こういうことを言わせてもらったわけです。</p> <p>責任の問題につきましては、ここで議論できるような内容ではありません。非常に日本社会の中で、大きなジレンマのところですね。こうやってあげたいと思っても、例えば、朝、交通の番に立つ年配の方々にしてみたら、道路を渡らせるについて、責任のことを考えたら、本当に大変なことで、日本社会では、自己責任というだけで済まないところがありますので、ちょっと難しいかなと思います。申し訳ないですけど、ここの中には盛り込ませていただかないつもりでおります。</p>	<p>(健全育成事業の事例紹介) 例年スキー教室を実施しているが、ほとんど自己負担であるにも関わらず、年々、参加者は増えている。</p> <p>海外では「自己責任」という合意がある。 その中で体験したツアーでの感動を子どもたちにも体験してほしい。</p>	

元気づくりプログラム分科会発言整理

論点	発言内容	発言概要	まとめ
<p>その他（地域活動と市の協働）</p>	<p>香良洲の方からの意見が、まちづくり戦略プログラムの方で一つございましたが、健康とスポーツの振興プログラムに該当するものでありましたので、発言する機会がありませんでした。またまちづくり戦略プログラム分科会の方でも取り上げていただいております、ここに書いてあるような内容とだいたい同じようですが、地域活動と市の協働のことについて盛り込んでいただければと思います。</p>	<p>香良洲地域審議会からも、まちづくり戦略プログラム分科会でも議論されているものと同様の意見がある。 改めて、十分検討いただきたい。</p>	<p>地域の特性を踏まえて、地域における市民活動の支援を、より一層進められたい。</p>
	<p>健康推進協議会と文化協会がまだできていないということですね。 これを立ち上げる意志がおありということですね。 地区の方にその意志がないと、市が何を言っても進まないわけですから。</p>	<p>（斜線表示）</p>	
	<p>もちろんそうなのですが、地域の実勢が尊重される場所で、私自身も、健康推進協議会も立ち上げなくちゃいけないと思っております。それから文化協会の方ですね。 まちづくり戦略プログラム分科会の方に入っている小泉委員さんが、かなりがんばってくださっているんですけども、残念ながら香良洲には文化協会がないんです。 これは地域特性というものもあることですが、先ほどからいろんな話が出ているように、もうちょっと行政側もバックアップしていただきたいと思っております。</p>	<p>（斜線表示）</p>	
	<p>そうすると、こういったスポーツ振興に限らず、地域のそういう要望を吸い上げて、しかるべき組織作りとか、そういうものの助言とか支援とか、そういうものを、これまで同様、あるいは、これまで以上に進めてくださいということでもよろしいですか。 健康推進協議会、あるいは文化協会に限らず、地域にはそれぞれこういうことをやってみたい、こうやりたい、こうしなくちゃいけないという思いがあると思っておりますので、そういう形で盛り込ませていただくことにしたいと思います。</p>	<p>（斜線表示）</p>	